

●川崎市役所の牧さん、おめでとうございます!!!

地球温暖化対策基本法案が、今年3月に閣議決定されました。温室効果ガスの排出量を1990年比で、2050年までに80%削減という長期目標が盛り込まれました。そんなに削減できるのかということですが、その考え方は次のようなことであると知りました。

CO₂の排出量は、基本はエネルギー需要面の削減と、削減された残りのエネルギー需要に充当されるエネルギーの低炭素密度の積で決まります。まず省エネでエネルギー需要を55%改善します。次に削減後の0.45の濃度について、新エネ導入で55%改善し、 $0.45 \times 0.45 = 0.2$ となり、80%削減ということです。

この前提として地球の気温が、50年時点で今より2度あがる位で止めたい。そのためには90年比でCO₂を地球上で半減する必要がある。世界のCO₂排出割合は途上国で半分を占めるため、先進国はゼロにする必要があるが、それは無理なので妥協の産物として80%がうまれた。ということで、これは日本独自の極めてトップダウン的発想にもとづいています。このためCOP16において日本は、京都議定書延長に強く反対する立場をとり混迷してしまいました。

以上は前座で、今日の話の主役は川崎市環境局担当理事の牧葉子さんです。「2010年度AECEN優秀賞」を受賞されました。おめでとうございます!!! AECENとは、アジア環境法遵守執行ネットワークであり、その優秀賞とは、アジアにおいて環境法の遵守・執行分野で際立った貢献と業績を残した女性行政官に贈られる賞です。なお牧さんは、大学時代は都市工学を専攻されていたので、今後は都市づくり部門とのコラボレーションでの活躍を期待します。

高尾利文（第二計画部）

●足立区スーパー堤防整備事業地区の都市計画公園開設

去る10月2日、足立区の隅田川沿いに2.5haの「新田さくら公園」がオープンしました。この公園は約1.2haの工場跡地につくられた、約3千戸の住宅開発の一部で、新しいまちづくりのほぼ最終段階として供用されたものです。

荒川と隅田川の間に広がる同開発の主な都市基盤は、荒川・隅田川の両河川に関わるスーパー堤防、北区と繋ぐ隅田川新設橋梁（新豊橋）、そして1.1haの広大な芝生広場をもつこの都市計画公園です。隣接地には、施設一体型で生涯学習施設等も併設した小中一貫校「新田学園」が、この4月に開設しています。

長年同開発計画の一部に関わりまちができていくのを見つめてきた私が同公園に足を運んだきっかけは、某都市全体の地区計画見直し業務でした。近年、都計道をはじめ「見直し」業務が増えているように思います。

スーパー無駄遣いとして事業仕分けされた直後に事業進捗中の地区を取り上げた番組では、地元行政が「事業は続けます」とのちらしを配付したと伝えられていました。一方で、平成8年の計画を見直した「荒川将来像計画2010推進計画」が策定されたのは本年10月8日で、取り組みの第1番目にスーパー堤防が位置づけられています。100年の大計であるべき都市計画ですが、効率性、実現性やアウトカムの効果も一層求められています。

複雑な思いはさておいて、足立区で最も標高が高く、荒川・隅田川を臨むウルトラスーパー堤防地区の夕暮れの水辺景観は最高でした。

坂井雅子（第二計画部）

●技術協力プロジェクト実施の過程でみるお国柄

現在ベトナムとモンゴルの2カ国で、都市計画・開発分野のJICA技術協力プロジェクトに参加している。前者は「ベトナム国都市計画策定・管理能力向上プロジェクト」、後者は「モンゴル国都市開発実施能力向上プロジェクト」。

ベトナムでは、建設省傘下のベトナム建築都市農村計画研究所（VIAP）をカウンターパートとし、都市計画策定・管理手法の提案、マニュアル整備及び地方都市の都市計画担当スタッフの育成を目的としたトレーニングセンター及びトレーニングコースの設立を目指している。一方のモンゴルでは、道路交通建設都市開発省及びウランバートル市役所をカウンターパートとし、都市開発関連法制度の整備と都市整備・都市開発事業の実施能力の向上を目的としている。

ベトナムは最初の門戸を開くのに一苦勞。トップダウンのお国柄のせいか、全

ての手続きが承認を経ないと進まず、カウンターパートとの信頼関係の構築には非常に時間がかかる。一方のモンゴルはオープンで、日本の経験を学ぼうと日々議論をしたり、突然の会議にも比較的簡単に上層部が集まってきてくれる。

しかしこれは立ち上げ段階の話。ベトナムでは確固たる技術支援や政策対話が出来るようになると、カウンターパートからの信頼も厚くなり、プロジェクトもスムーズに進むようになる。モンゴルでは当初からの良好な関係は維持されるもの、十分に我々の意図が理解され、自分たちで実践できるようになるには少々時間がかかりそうな印象も受ける。しっかりとした土作りが大事な「農民型」のベトナム、草原で獲物を探し続ける「遊牧型」のモンゴル。プロジェクトを通じてその国民性を垣間見られているわけだが、その国の性質と実態に沿った技術支援を行うことの重要性と難しさを痛感する日々である。

阿部朋子（海外室）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2010 ALMEC Corporation. All rights reserved.